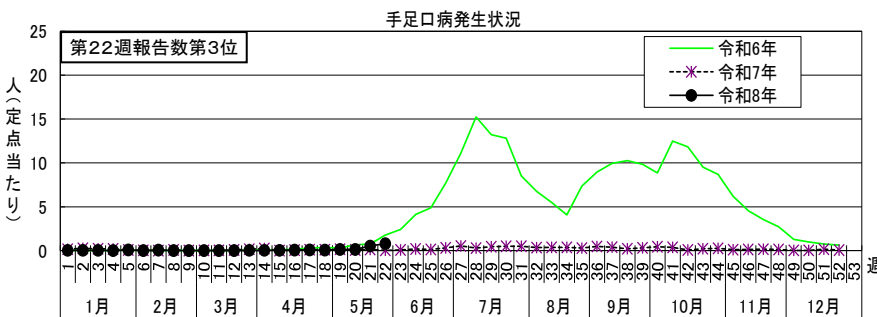
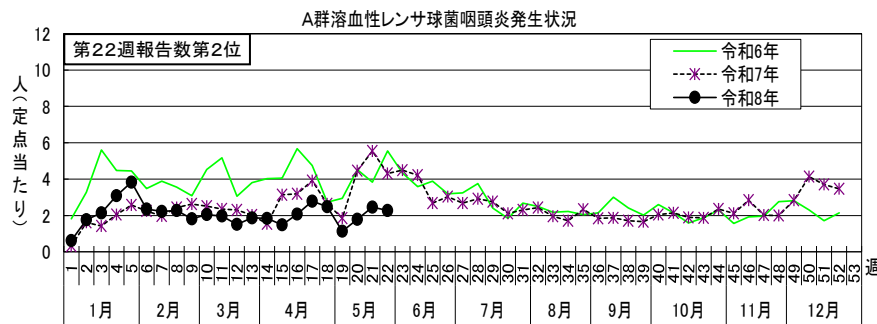
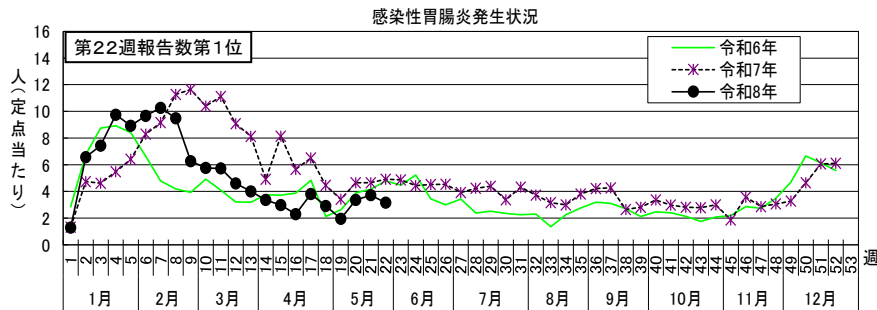


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和8年5月25日（月）～令和8年5月31日（日）〔令和8年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.16人と前週（3.73人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.27人と前週（2.46人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は0.78人と前週（0.54人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



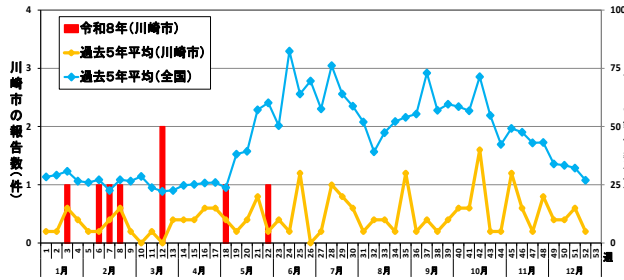
注意したい感染症～レジオネラ症～

レジオネラ症は、川、温泉、土などに生息しているレジオネラ属菌を原因とする感染症で、重症のレジオネラ肺炎と自然軽快が期待できるポンティアック熱の2つの病型があります。レジオネラ肺炎では、全身倦怠感や頭痛の後に、咳や高熱、呼吸困難がみられるようになり、急速に進行した場合は命にかかわることもあります。高齢者、大量飲酒や喫煙習慣のある人、免疫機能が低下している人などは肺炎を起こしやすいとされています。

川崎市では年間を通じて一定数の報告がみられますが、全国では7月～9月に報告数が増える傾向があります。

抗菌薬による早期治療が重要となるため、咳や高熱に加えて全身症状が強い場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

全国及び川崎市におけるレジオネラ症報告数
 (令和8年第1週～令和8年第22週)



レジオネラ症とは？

【主な症状】

- レジオネラ肺炎
発熱、咳、呼吸困難、下痢、意識障害等
- ポンティアック熱(肺炎にならない自然治癒型)
突然の発熱、インフルエンザ様症状等

【潜伏期間】

- レジオネラ肺炎：2～10日間
- ポンティアック熱：1～2日間

【主な感染経路】

レジオネラ属菌に汚染されたエアロソル（細かい霧やしぶき）を吸引することにより感染
 ※人から人に感染することはありません。
 ※浴槽やミスト発生装置内の水は定期的に交換し、清掃でぬめりを取り除きましょう。
 また、高圧洗浄等、エアロソルが発生する作業ではマスクを着用しましょう。

